■罰金茶話會を開くに當り、徴收額を檢するに某は一點某は二點某は十三點平均すれば一人四錢餘、依て貧乏くじを引きて補缺したる結果、某は僅に一錢某は十九錢五厘を出すと云ふ不平均を來しぬ。菓子出るに及んで高點者は先取を主張し、一錢君は社會主義を振廻して天下平等を主張す。やがて會始まるや、一人がもう熱いを言つてもよいと言へば一同忽現金主義を奉じて口々に熱い／＼を連發す。

■横濱の某性頗る快活、聲甚だ甲高、一笑すればよく一町四面に轟き渡る、送別會の席上、滑稽動物園に獅子を見ん事を望む園主先づ説明して曰く、えゝ此獅子は丈が高くて聲も高い。さあ御覧なさいと。某君覗いて見るや、苦笑一番、ウワッハーと吼ゆ。一座の百獸悉く之に和してウワハヽヽ……。

■短しと雖も二週日、朝は五時前に起き、多くは食前に一枚のスケッチを得、朝の講話すめば直に三脚を擔いで出て、頭上に太陽の耀々たるを忘れて無心に筆を運ぶ。午後は多く二時の聲に飛出し、蟬の聲滋々たる炎熱の場裡に、人は正に午睡の夢まどかなるべきを吾一團は已に塵寰を脱して直に自然と同化す、其勇氣や忍耐や、否其熱誠や、恐らくは他に又之を見る事能はじ。

■一夜丸山先生、巴里に於て自ら演ぜし滑稽談を話さる。珍妙洒脱、談興に入つては先生自ら體を前後に搖すつて大に談じ大に笑ふ。聞く者吾を忘れて、和氣自ら一場に滿つるを覺ゆ。惜しや吾に、之を筆して讀者に興を頒つの才なし。

■二十四貫君常に奈良の方言を用ゐて女中を笑はす事一再ならず。食時に至りて女中故らに他の方より飯を盛り始む。二十四貫君もどかしくて堪らず、茶碗をたゝいて曰く、『はよう飯を呉れへんか』

日本水彩畫會新會友

山口縣山口町大市、八井秀太郎方　中土居　權太郎
鳥取縣西伯郡五千石村諏訪村　佃　永吉
大阪市東區東高津南ノ町一二八ノ六武田方　伊藤　廣治
京都市四條通富小路角、明治生命保險株式會社内　西田　定次郎
神奈川縣都筑郡中川村茅ヶ崎　岸　頼正
和歌山縣有田郡廣村狛忠雄方　長谷川　年行

◎寫眞、殆ど中央、手を組んでゐる洋服姿は丸山講師、少し左の洋服は松原講師、羽織袴の方は新納先生、ズッと前方石階に腰かけてゐる洋裝は大下講師。